

第8回「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画」策定作業部会議事録

1 日 時 令和2年12月23日（水）10：00～11：50

2 場 所 アクロス福岡 607会議室
（福岡市中央区天神1丁目1番1号）

3 出席者（敬称略）

・作業部会委員

	氏 名	役 職 等
部会長	小 出 秀 雄	西南学院大学 経済学部 教授
	平 由以子	特定非営利活動法人 循環生活研究所 理事
	田 中 綾 子	福岡大学 工学部 教授
	中 山 裕 文	九州大学大学院 工学研究院 准教授
	久 留 百合子	(株) ビスネット代表取締役／消費生活アドバイザー
	松 藤 康 司	福岡大学 名誉教授

4 会議次第

1 開 会

2 議 事

(1) 今後のスケジュールについて

(2) 第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の名称等について

(3) ごみ処理量の将来推計について

(4) 第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画原案について

3 閉 会

5 議事録

議事（1）今後のスケジュールについて

【事務局】

（資料1について説明）

【部会長】

ありがとうございます。資料1に即してお話しいただきました。何か質問、ご意見がございますでしょうか。もうそろそろ佳境に入ってきているという感じですけど。

（意見なし）

【部会長】

では議事の 2 番目、「第 5 次福岡市一般廃棄物処理基本計画の名称等について」を事務局から説明をお願いいたします。

議事（2）第 5 次福岡市一般廃棄物処理基本計画の名称等について

【事務局】

（資料 2 について説明）

【部会長】

ありがとうございます。メールでお問い合わせがありましたけれども、基本計画の名称としては案 2 のほうが良いということですが、加えて何かありますか。「基本計画、基本計画」って繰り返すより、片方はプランのほうが今っぽいのかなと思いますけれども。特に名称に関しては、案 2 でいくということをご了承願います。

そして裏面のキャッチコピーです。最初の案だと「スリム・シンプル・シェア」ってなっていたんですけども、一発目に「ス」が来るとちょっと音声的に弱いなと思って、「シ」のほうが強いので、私は「シ」が来たほうが良いかなと思って、ちょっと逆にしたほうが良いかなというふうにご提案をしました。

「S・S・S」ですね。右に書いてあるのが「F」のマスコットなんで、「S」でそろえた理由はあとで考えるとして、取りあえずキャッチフレーズの内容としてはこれでいいのかなというふうに私も思います。何かご意見ありますか。

【委員】

基本的には「1・2・3」って書いてしまうと、「リデュース・リユース・リサイクル」の順番みたいになる。

【部会長】

優先順位みたいな。

【委員】

逆に言えば 1・2・3 を取るか、あるいはやっぱりごみ減量というのがかなり大きいから、どちらかといえば前の「スリム・シンプル・スマイル」か、減量を前に持っていくか、それでなかったら、1・2・3 という番号を落とすか。そうしないと多分一番最初が深いって感じがするから。後は、皆さんの議論で良ければそれでいいんじゃないかと。

【委員】

事務局のにも言ったんですけど、私が「シンプル・スリム・シェア」が良いと思ったのは、先ほど委員が言われたように 3R の最初に発生抑制というところがあるので、そういう意味で簡素という、シンプルなほうが良いのかと思ったんです。だからどこを意識する

かによって、多分場所が変わってくるのかなというふうに思っまして、国の施策に反映させるのであれば、今の現状のほうがいいのかと思ったんです。

それともう1つは、「S」というのは結局最終的にはサステナブルにつながる「S」だという位置付けで考えればいいのかというふうに思っています。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

今言われたように、われわれとしてはサステナブルとかSDGsも「S」で始まってますから、そういう面では「S」がいいかなと。

【委員】

ちょっとメールで書いていたんですけれども、ここの上の3つの「S」を合言葉に私たちみんなで行動をしよう。さっき、これをそのまま使うんじゃなくて変形していかれると言っていたんだけど、これはキャッチコピーにならないんです。例えばもっとぼしっと止めた言葉じゃないと。

「3つのSを合言葉に」って私書いていましたが、「みんなで行動」とかそんなふうに、キャッチフレーズだったら、もうちょっと文章ではなくてぼしっと締める言葉じゃないと駄目だと思っています。それを変形していただけるということであれば、書くところによっては、「みんなで行動をしましょう」とかいう書き方もいいかもしれない。でも本当にキャッチコピーにするんだったら、もっと言葉が違うと思います。

【委員】

そういうのがあって、「目指そう」と書いていたんです。「目指そう、3つのS」を合言葉に、「減量とエコ」とかそういう感じにする。何かそういう呼びかけを。だから前の計画の時も「参加しませんか」じゃなくて、「参加しよう」だったんです。

【部会長】

レッツみたいな。

【委員】

そのほうが何かやったという印象があるらしいんです。何でも上から「参加しませんか」というのを、「参加しよう」とか「目指そう」と言ったほうがキャッチコピー的には、新聞記者の人に聞いたら、いいと言われた。

【委員】

例えば「さあ行動」とか。何かぐっと入ってくるような、促すような言葉があるといいですね。

【部会長】

とりあえず、この1・2・3はなくてもいいかなど。

【委員】

ぜひおしゃれな感じをお願いします。先ほど言われたみたいに、サステナブルに向かっているんだということと、仙台市が来年から「グリーンネストシティ」というのを打ち出してやるらしいんですけど、将来ビジョンが見えるみたいな、エコロジーとか緑とか循環とかが分かるような、すごいおしゃれに作っているみたいなので参考に。

【部会長】

先ほど言われた、サステナブルに向かってみたいな感じで入れたほうが、それで「S」なのかという気にはなります。1行目のところですけど。そういう意味では、「S」つながりというのをに入れていいと思います。

あと、おしゃれにするのはどの辺をどうしたらいいんですか。

【委員】

色合いかもしれない。

【委員】

環境局のキャラクターのかーるちゃん、ごみ箱が軽くなって飛んで行くイメージのキャラクター。別にキャラクターは1個じゃなくてもいいんだけど、かーるちゃんでもいいかなど。ごみ箱を絵に描いているって少ないでしょ。あれは古いんですよ、このエコッパよりも。

【事務局】

そうです。かーるちゃんが平成元年か2年ぐらいなんです。

【部会長】

30年ぐらいたっているわけですね。

【委員】

吹き出しが同じトーンだから、分かりにくいかもしれないです。吹き出しのところはやっぱり色を変えたほうがいいです。明るい色にしてみるとか。

【部会長】

そんな感じで、ぱっと見で分かるように。

シンプルな訳語で「簡素」は硬いというご意見が出ていますけど。

【委員】

事務局には言っているんですけど、要するに減量というのは市民が「ああ、減らせばいい

いんだな」と思うけど、簡素になってくると、どういうことかなって考えるから、例えば、消費を減らすということなので、消費につながるいい言葉があればいいかなと思ったんですけど。

【事務局】

日本語をあえて入れたほうがいいですか。入れないと分からないですか。

【委員】

何となく分からないような気がする。昨日も学会のセミナーがあったんですけど、横文字が多すぎて、若い人でも専門的なものが全然分からないとか言ってましたから、あまり横文字は。

【事務局】

それぞれでシンプルということの捉え方が違うんですけど、簡素というとそれをやってくれという感じになるので、人それぞれ、できるシンプルライフをしていただければいいという意味では。

【委員】

シンプルライフのほうがいいんじゃないですか。

【委員】

シンプルライフは一時、言葉はよく使われていたから。シンプルライフは多くの人は分かる。

【委員】

逆に日本語なんか書いておかないといけないですか。

【事務局】

そこがどうかなと思って。シェアも、大体皆さん分かっていただけかなと。

【部会長】

ということで、ちょっと今いろいろ出てきましたけど、とりあえずこのキャラを変えて見やすくして、あとは日本語の部分もちょっと取り扱いを考えてくるという感じです。

まだまだ検討の余地のあるところで、最終的には次ぐらいに決まればいいんですか。

【事務局】

原案の中でどう見せるとか、今後どう使っていくというのは、また事務局で少し案を出してお示しながらご意見を頂きたいと思います。その中で原案に反映させていくような形を取っていきたいと思うので、次回までにはどういう使い方みたいな方向性を示したいと思います。

【部会長】

ということで、これはまた継続ということをお願いいたします。

それでは議事の 3 つ目、「ごみ処理量の将来推計」について事務局から説明をお願いいたします。

議事（3）ごみ処理量の将来推計について

【事務局】

（資料 3 について説明）

【部会長】

ありがとうございます。それでは将来推計に関して、ご質問ご意見等があればどうぞ。

【委員】

この数値目標につきまして、これは今の博多駅と天神のビッグバンの予測も当然入っていると理解してよろしいでしょうか。難しいかもしれませんが。

【事務局】

非常に難しいところなんですけれども、現状これまでもずっと開発を進めてきて、その結果が今の数値に表れてきているという状況からも、それをトレンドで見た形になってますので、基本的にその中に収まるのではないかという考えでいます。

ただ具体的に、延べ床面積がどれくらい増えるというところは分かっておりますので、そういったところはより具体的な施策のほうに落としますけど、事業所数としてはこういった見方、細かいとこまでそれを把握して入れているかと言われると、そこまでは入っていないということです。

【委員】

最初の考え方のところで、規制的手法以外の施策の効果を一応 10% 見込まれているというお話だったんですけど、これまでいろんな施策をされた中でのパーセンテージと齟齬がないのかというところが、まず 1 点目お聞きしたい点です。

それからもう 1 点は、施策を新たにやった時のパーセンテージと継続の場合だと、その現状でやっているものからまた追加というのは、多分パーセンテージが変わってくると思うんです。その辺りは考慮されているのかという 2 点です。

【部会長】

ありがとうございます。事務局お願いします。

【事務局】

今、現計画の中での原単位が 36 グラムぐらい減っています、家庭ごみ原単位でいうと。

これはパーセンテージでいうと 6.5%ぐらいの減ということになります。これは全体像で見た場合の数字ですので、個別の古紙だったりプラスチックだったりどれぐらいというところはもう少し検証していく必要があります。

その中でさらに施策を導入していくことによって減らしていくことになるので、10%というのが実際個別の施策によって、個別の品目に関してはもう少し減っているものもあれば、そうでないものもあるといったところで 6.5%です。今回、原単位で見ると大体 25 グラムなので、5%ぐらいの減ということになります。今が 6.5%で、今回が 5%ということで、基本的にはさらに継続していく中でこれぐらいは減るのではないかとということで、総合的に見るとそうです。ただ、個別具体のもので積み上げていくと、やっぱり 10%程度の減量を見込んでいく必要があるんじゃないかということは考えています。

今の数字を踏まえて、さらにじゃあどれくらいを上乗せできるのかみたいなところはなかなか評価が難しく、今のごみの組成の状況の中から減らせるものは何か、それに対してどれだけの協力率が得られるのかというのが、どちらかというベースになっています。ですので委員が言われるような形も多分考え方としてはあるんですけど、この考え方はどちらかという今のごみ質から減らせるものは何か、それはどれだけの協力率は得られるのかというのがベースになっているのが現状です。

【委員】

今につながってくるんですけども、私もこの考え方は分かるんですけども、例えば 1 つ例を挙げると、プラスチックは要するに私たち消費者が減らせるものというだけではなく、事業者のほうでプラスチックを使わないとか、そういうところというのがこの前からスーパーに聞いたりとか、いろいろヒアリングをしている中で、あまりはつきり入ってこないんです。事業者側がどこまで本気でやろうとしているのか、そこら辺がちょっとピンとこないんです。

何かその辺のところをもう少し加味したというか、ある意味今のやり方でいうと、まあ無難なところかなという感じはするんですけども、もうちょっと推進していくためには、特にプラスチックなんかの場合は発生抑制とかもう少しプラスチックを使わないというような、メーカーだったり事業者側の、販売も含めて事業者側にもう少し突っ込まなくていいのかなと、推計をする時に。

難しいのは分かります。だけど感触からしてどうだったかというのは、私はいまいちヒアリングの結果があまりピンときていないんです。だからその辺をちょっと感触としてお聞きしたいのと、そういうことができるのかどうかちょっとお伺いしたい。

【事務局】

国がプラスチック資源循環施策のあり方について、パブリックコメントをしています。あの中でも生産者側の取り組みというのは、今から環境配慮設計みたいなものの指針を出してお願いするぐらいのレベルです。

少しずつそういったものが浸透してくれば、プラスチックの量も生産側として減ってくるかもしれませんが、まだそこまでの段階に至ってないという状況かなとは思っていますので、さらに小売店とかそういったところがそういう取り組む状況に今現在あるのかと言

われると、非常に厳しいのではないかというのが認識であります。

ただ、そうはいつでもバイオプラスチックを含めてそういう素材の開発であったり、素材の普及促進みたいなものは、消費者側というか下からでも上げていくことはできているので、これを施策の中で見れるんですけど、なかなか削減効果というところまでは至らないという考えです。

【委員】

分かりました。そういうことでは相当やっぱりここは、逆にいうと消費者側のほうからそういう物は選ばないとか、ばらばらの物を買って行って家に袋で持って帰るとか、そんなところの啓発とかいうところの今の段階では力を入れていくというほうが、削減についてはいいですね。なかなかその辺が時間がかかるんですけど。

【部会長】

数字でこれを示さないといけないというところがあるので、ちょっと難しいんですけど。

【委員】

多分、国のほうはプラスチックの製造を抑えていく方向になってるんですけど、生分解性プラスチックを増やす方向になってて、世界的には生分解性を抑えるというか、それで日本はやっぱり何というか、総量が変わらないぐらい生分解性を推奨するんですけど、生分解性も石油由来のものが結構ある。今は使い捨てが問題なので、先ほど出した「シンプル、シェア、スリム」の3つでどれだけ減らしていくかということをもっとコミットしてやって。

ヨーロッパ、例えばドイツとかだったら、コロナで使い捨ての容器がレストランのテイクアウトで増えているんだけど、来年の4月には使い捨て容器の販売禁止になるんです。それを打ち出すことによって、何回も使えるリカップというのが使われるようになって、その仕組みが発展するんです。

そういう意味では、国の政策を待つ前に福岡市としてそういう方向性をちょっと考えとかなないと、国の数値自体がそういう状況なので、何か方針とかこの3つの「S」でどういうふうにやっていくかということを出したほうがいいんじゃないかと思います。

【事務局】

ヨーロッパの状況は確かにそのとおりで、ワンウェイは基本使わないという方針も、全体の方針としてそういう方針があるというのは十分理解していて、そういう方向性が多分一番望ましいのだろうと私も思っています。

ただ、日本だとどっちかというリサイクル優先というか、出てもリサイクルすればいいんじゃないかみたいな、そういう意識が強い。今出ている資源循環戦略の施策のあり方も、確かにリデュース、リユースが一番最初に書いてあるんですけど、そこに具体的施策案はない。言われるとおりのワンウェイプラスチックの使用禁止をいつまでにしますとか、そういったことはあまり書かないです。

そのあとに続くリサイクルについては、自治体頑張っただけとか、事業者で店頭回収をも

っと強化してよみたいな、そんな話です。リサイクル市場自体もそれほど進んでるわけじゃなく、再生品もそんなに普及してないし、そもそも再生品がどれなのかもあまり分からない。そういったものもあまり広報しないという状況です。

基礎自治体としてできることは、当然やるべきことがあると思っています。再生品の普及促進だったり、リサイクルにつながるような機運の醸成というか、まだ私はその程度だと思ってるんです、今の状況が。なのでそういったところはしっかりやっていく。

それと今、ペットボトルに関して言うと、基本的には水平リサイクルを推進しているところも結構あります。単純に溶かして素材として使うより、ペットボトルはペットボトルとして使う。それであれば確かに、投入資源は多少なりとも減っていくということもあります。そういった事業については、積極的に事業者とかと連携しながら進めていきたいと考えています。

なので基礎自治体としてやれることをしっかり取り組んでいくことが重要で、その中で少し先進的なことも見い出していけたらいいのかなと考えています。

【委員】

何か姿勢が見えるものがあれば3つの「S」も伝わるんじゃないかなと思うんですけど。

【委員】

今の意見に賛成で、例えばこの推計の中でも、下限というところが経済状況の見込みになって、市民目線ではない。市民が自主的にそういう行動を取ったら、さっき言った商品を選ぶ時にはいわゆる簡素のシンプルなのをやったらもっとこれだけ減りますよという、そういうのがあっていいんじゃないかなと思ったんです。

だから市が言うことだけを聞いとけばいいよねというのではなくて、自主的なことをもっとやってくれたら、もっとこんなふうに減りますよと。市民にこれはアピールするためのものなので、そっちが必要かなと。そういうのを入れるといいかなと思いました。

【部会長】

そうすると、例えばこの下限のところの理由として、「S」を徹底的にやるとこんなになりますよと。だから10%削減と半減削減と達成するとここまで減りますみたいなリンク付けというか。

【委員】

面白いですよ。今までそんなのはあまりない。

【部会長】

確かにそっちのほうがいいのかと。

【委員】

そうしないと「えっ、何だろう？」と。こっちとこっちが結び付かないかなという気がして。

【委員】

いつも行政が作られたら「あれ？」という感じがするけど、自分たちがやればこの辺まで下がるというのが。

【委員】

だからキャッチコピーに、「やるぞ」とか「やろう」という意気込みがこの中に反映されてないということになる。

もう1つは、10%の数値の1つの根拠で、この間もちょっとお話ししたんですけども、人口が伸びてますが、この伸び率というのはどれぐらいなんですか。

要するに普通だと人口が増えれば増えるほど、ごみは増えますよね、基本的に。福岡の場合は増えてます、1万人ぐらい。それを見込むと当然ごみは増えるだろうけれども、いろんな施策を置くことによって横ばいか、あるいは減ればいい。実際の数字はちょっとしか見えないけれども、本当は原単位はかなり減ってるわけです。

だから最低、とにかく人口が増えてもごみをこれ以上増やしたら大変だと。何かそこを1つのベースにして、それでもやっぱり減りそうになれば、まさにやるぞと。レッドカードに近くなってきてるから、さらにあと2%ぐらいを上乗せして、6品目ごとの施策を目標に出していく。そういうほうがいいかなと思うんです。

【事務局】

プラスチックについては、先ほど基礎自治体でできることというところで、原案の中に書かせてもらっていますけど、できることと言うと市全体の制度を変えるみたいなことはなかなか難しいんですけど、例えば目立つところでいくと福岡市はイベントが多いというのが非常に特色だったりして、そういったところでワンウェイプラスチックが結構消費されている。だからそれをリユースできるようなものに変えていくと。

要は、目に付くところ、目立つところを少し変えていって、その機運を上げていくみたいなものに、新しい施策として取り組んでいきたいとは思っているんです。

なのでプラスチックはそういう形で当面やりながら、目立つところをやりながらPRをしつつ、それを全市的に展開するにはどういうふうに展開するかみたいなところを、考えていくようになるのかなと思っています。イベントだけじゃなくて、ほかに目立つところもやっていく。

【委員】

でも福岡の特性から言いますと、それこそ外食とかレストランなんかも多いし、だから何かそういう福岡らしいところをやっているものがあるというか、そういうのはあると思います。それをアピールしていけば、ある意味福岡の施策になりますよね。

【事務局】

そうですね。

【委員】

でも変な話、インスタでS子さんとかS男さんの具体的などれかの取り組みを毎日発信

したほうが、それぐらい具体的な、ここに人の顔が入って、それをインスタで 365 日誰かに委託するのが一番ごみが減るような気がします。

【部会長】

そういうのはいいかもしれないですね。

【事務局】

本当に意気込みがあって、市民の方で取り組んだら下がると思います。ただ、あとはこれをどう評価していけるかという、実際にこの目標を立てたら数値で分析していかなきゃいけないんです。3S で頑張ると、どれだけ減ったのかという部分がどう評価できるか。

【委員】

でも、やってみて考えるというのも大事で。やっぱりやったことないことにチャレンジすることが、未来に向けて踏み出せると思うんです。

【事務局】

われわれの環境行政のところで、ずっと課題としてある。データがやっぱり取りにくいとか、自分が何グラム何を出してるかって知らないんです。だからごみ袋で組成分析して代表的なところをとるという感じでしかないの、どう市民の頑張りの分を数字で持つてくるかという、データの取り方がずっと課題だとは思ってるんです。

【委員】

シェア数とかじゃ駄目なんですね。

【事務局】

そこは打ち出し方だと思います。今回、10%という中には当然市民の頑張りの含めたところもあるんですけども、今回はちょっと数字を示さなきゃいけないので、こういうデータに基づいていますということです。

そこを打ち出していく意味、逆に言うと、それより減ったのであればこれはやっぱり市民の頑張ったからという評価をわれわれがしていく中で、そこをまた打ち出していく。そういう形で、打ち出しと施策をうまく組み合わせながらやっていきたい。また、数字の部分はちょっと整理がありますけど。

【委員】

今までみたいに 2 次推計というような、これでデータで出しましたというだけではなく、やっぱりきちんと、もっと言うと言葉をもう少し足さないと伝わらないかなという感じがします。

【事務局】

ちょっと意気込みが入るような数値を出したいです。

【委員】

あと、自発的な市民の協力というところ、共働と簡素というところがちゃんと入ってますよというのがあれば、ここまでいきますよという何かそういうのがあったほうがやりやすいかなと、市民としても。

【部会長】

そういう主体的な文言を入れていくというのはいいと思います。

取りあえずこれは数字として出さないといけないということがありますので、その表現をちょっと工夫されるということで、いろいろご意見ありがとうございます。

それでは4つ目です。「第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の原案について」をご説明をお願いいたします。

議事（4）第5次福岡市一般廃棄物処理基本計画の原案について

【事務局】

（資料4について説明）

【部会長】

ありがとうございます。結構これも分厚いですが、今日言いそびれたこともあとで追加で言えますし、今から30分ぐらいの間で気付かれたことを発言していただくということでお願いします。

【委員】

気付いたところから申します。送ってくるのが遅かったので、本当にパラパラしか見てなかったんです、時間がなくて。だからちょっと気付いたところですが、34ページです。さっき言われた、ここの頭のところの「施設特性に応じた3R推進モデル」と、これはやはりイベントとかいう言葉を、入れるならここかなと、私も読み込んでないのであれなんですけど、イベント等が現状ではあってなくて、3Rを推進していくというところが入ってくるといいかなと。ちょっとそういう言葉がないので。

【事務局】

37ページのところの「持続可能な消費行動」の一番下、「イベント等でのワンウェイプラスチックの削減推進」という形で記載しております。

【部会長】

再掲してもいいですね。

【委員】

ここがつながるかなということで、書いてもいいかなと。

もう1つは51ページなんですけれども、これが私ずっとこの資料を見てて目に付いたんですけど、確かにそうなんですけど、書き方が、確かに戸別回収は4分別だし、それから9区別されるんですけども、特に気になるのが同じグリーンで書いてある区役所などの公共施設で並べているのは、ここに書かれていると何か市がやってくれるみたいな感じがする。市民が積極的に分別して、持って行くのは大変なんですけど、ごみを出さないためにこういう所がちゃんとあるんですよというようなことを、もっと何か書き方がないかなと。

図表のオレンジには出てこないかもしれないけど、グリーンのほうで下にやっちゃうと9区別と同じじゃないかと、あとは市が勝手にやってくれるみたいなイメージが、何かぱっと見た時にしたんですね。ちょっとここは工夫が要るかなと思いました。

実際に行政でやっているという点、でも市民が参加してやらないとここは成り立たないので、ちょっと書き方があるのかなと思いました。

あと、生ごみの循環のというのが入ってないですね。私もページがどこだったか、聞きながらここかなと思って見逃したんですけど。

【部会長】

この図表の35は、前からこういう図を出されているんですかね、福岡市で。

【事務局】

現計画はこういう表現です。

【部会長】

そうすると、これを機にちょっと変えることもできる。

【事務局】

そうですね。

【委員】

私もこの図はちょっと変だなと思ってらるんですね。区分で言うのではなくて、タイトルは「資源物の出し方」となっていますから、出し方になるようにしないといけないので、資源化に出す方法がいくつありますかと。

あとの処理に関しては、ここは市民はあまり関係ないですよ。やっぱり並列がいいのかなと思って、市民のところは。

それとルートに分けるのであれば、自主的に自分で持ち出すのか市が回収するという、ルートは色分けしたほうがいいかなと思うんです。ごみとして出す場合には市が回収ということですね。資源化物として出す場合というのも、何かちょっとここも空きびんとかペットボトルは、自分は資源物として出しているという気持ちがあると思うんです。なので、そこは収集体系の違いみたいなのところをしたほうがいいかなと思いました。

【部会長】

ありがとうございます。ここの図はもっとでっかく 1 ページ丸々使うぐらいで、分別区分とそれぞれ分けて、絵も入れて分かりやすくという感じですね。

【委員】

いくつかあるんだけど、例えば 36 ページを 1 つ例に取ると、イベントが多いとか言ったりしていて、年間の開催ペースはこれぐらいあるとか、定量的ではないんですね。それがないから深刻さが分かってこない。

それから例えば「単身者・高齢者世帯の多様なライフスタイル」と書いていますが、福岡は学生が多いということであれば、今全国で何番目とか何かそういうのがあったほうが、それから高齢者はよそに比べると少ないけど、これから 2030 年に比べると何%ぐらいで、何万人ぐらいになるという数字があったほうが。

それと前の 33 ページに「交流人口をターゲットにした 3R の推進」と書いていますが、これも「多くの人々が集まり何とか」と書いて、これは交流人口だけど、1 日に 5 万人来ているとか、そういう数値があったほうがいいと思うんです。

そうしないと、大変だというのがあまりよく伝わってこないんです、こういう言葉だけだと。だから、そういうのはちょっと数値を、何かそういうのがあったほうがイメージしやすいんです。1 人 500 グラムだけれども、交流人口だと 3 分の 1 にして 200 グラムぐらいかなということになると、200 グラムが 5 万人もいたらぱっとイメージができます。それを処理しないといけないんだと。

だからいろんな数字を入れるところあると思うんです。それとかさっき言った生ごみのあれだとかも、例えば「店頭回収の推進」と書いてますけれども、今、店頭回収に協力している店が何軒あると、それをわれわれとしては横ばいにするのか、あるいはもっと増やしていこうとしているのか。そうすることによって、さっき議論になっている図表がもう少し生きてくるかなと。

【部会長】

内容のところに数字をちょっと入れるか、あるいは参考指標みたいな感じで別途節を設けるか、ちょっとページ数が増えるかもしれないですけど、確かに具体性が出てくるのでいいと思います。

【事務局】

数値的などところに関しては、今回資料編を付けてないんですけど、それをピックアップして、こういう現状だからこういうのに取り組んでいるんだというのが分かる形がいいですね。

【委員】

コロナのニュースをテレビで見ると、病院が「いやもう足りませんよ」と言われるよりも、「もう 85%。もういっぱいいっぱいです」と言ったほうが、何となく深刻さが分かる。それと同じ効果で、そのほうがいいかなと。

だから生ごみでも同じ。あれも具体的に、今は協力者がこれぐらいいると。そういうのがあったほうが何となく説明しやすい。一生懸命やろうとしている姿勢は分かるけれども、ずっと入ってこないんですね。

【部会長】

重要なものは内容のところに数字を入れて、詳しくは資料編の何ページを見てという感じでいいですか。

【委員】

言い方はちょっと厳しいかもしれませんが、全体的に当たり前の話を書いているだけであって、それを「じゃあ5年間で今の20を25にします、30にします」と、「10年間で40にします」と言ったほうが。それを何でしないといけないのかというのは、この中に全部網羅されてるわけです。ごみを減らそうという項目ごとに。だからそういうもので現状を知っていただいたほうが、頭の中に残るかなと。それと前も言ったけど、ちょっと字面が多いから、これを読めって言われてもなかなか。

【部会長】

福岡市は、総合計画は今作られてありますか。今の時期じゃないですかね。

【事務局】

今、10年のうちの8年が終わったところです。

【部会長】

そうですか。私に関わっている春日市と志免町がちょうどやってくるんです。だからそういうタイミングだったら、ここに環境局以外の目標みたいなのが出てくるんで、それを入れていくとかできるんですけど、参考資料というか、指標として出すべきものは出していくみたいな感じでいいと思いますね。

【委員】

ちょっと今の関連でいいですか。福岡市は高齢者はもちろん増えていくでしょうけれども単身高齢者、都会的な問題にされると単身高齢者が増えていくんじゃないかなと感じがするんですけど、その辺の推計というのは予測みたいなのはありますか。

【事務局】

保健福祉局が担当になってますけれども、そちらのほうで数字を出しております。

ただ、ベースの人口も含めて、今回は今の人口ベースを少し補正した形で人口を出してますが、マスタープランの人口とまた変わってるわけじゃなくて、それをベースに出した単身高齢者世帯の数という推計は、保健福祉局が出しています。

【委員】

高齢者が2人にいるのと1人というのは、やっぱり生活が違うと思うんです。ごみは減るのかもしれませんが、ごみ出しが大変だとか難しさが出てくると思うので、その辺が施策にもつなげていって、1つ書いてあったけど。何かそういうふうなことがちょっと推計から出てくるようだったら、ちょっと力を入れて将来的には変えていかなきゃいけないかなと。

【部会長】

ありがとうございます。

【委員】

方針2のタイトルは、「イノベーションとコミュニティによる地域循環共生圏の創造」なんですけれども、中身が今までと全然変わってないのと、やっぱりビジネスのところも食ロスと2Rの推進と書いてあるんですけれども、方向性は「NPO等も参加して多様なコミュニティによる取り組み」と書いて、「最大限発揮」と書いてあるけど、これでは最大限発揮できないんです。

資源循環共生圏ってエコ暮らしを推進して、自立分散と相互連携と循環共生というこの3つが大きな柱なんです。これまでそれができてなかったということで第5次環境基本計画で、出てきてると思うんですけど、ITのところも食ロスとかだったりするので、もうちょっと地域で共助を利用した資源循環を作るとかそういうことが入ってないと、ちょっと中身とタイトルが合っていないんですね。

やっぱり将来ビジョンは達成するためには、具体的にしていけないと絶対できないし、先ほども言ったように、掲げるもので姿勢を見せた場合には、やっぱり中身を推進しやすいようにしておかないといけないと思うので、生ごみを循環するような地域の取り組みとか循環系のモデルとか、そういったところにもしてほしいと思っています。

あと49ページの「新たな仕組みの形成」とこのシステムの検討も、食品廃棄物でエネルギーにするというそっちの方向性だったら、SDGsもそうなんですけど、商業ベースを中心とした考え方なので、栄養循環の考え方とか食循環の考えがあまりないんですね。

それで余ったものを食べればいいのかと言うと、それではやっぱり健康にならない。持続可能性というのは「みんなが健康で幸せ」というのが大前提ですから、地域で家庭から出る栄養は、ちゃんと地域の栄養として戻して循環しましょうというのが地域循環共生圏ですから、それが具現化するような項目をきちんと出してほしいなと。

【部会長】

ありがとうございます。基本方針の2の中に生ごみの話が入ってくるんですね。そして最後の新たな仕組みのところを、食循環を入れた形にすべきだというご意見です。

【委員】

海洋プラスチックごみのところの取り組みで、基本的な取り組みとして「ボランティアによるごみの回収」というのがあるんですけども、基本的にボランティアに頼ったごみ・

プラスチックの回収でいいのかなと僕は思ってまして。

というのは、プラスチックが川とか海に捨てられるのは、ポイ捨てだったりいろんな事業活動から出るものもあると思うんですが、ある意味プラスチックの製造業者というのは、そういったものに対して責任を持つてると思うんです。例えば飲料容器のメーカーであるとか、そういうものを販売している会社ですね。

そういうところもある程度ごみの回収に対する責任を持っていると考えると、ボランティアにこれを頼っているというのはあまり良くなくて、むしろ事業者を巻き込んで、協力して海洋プラスチックごみとか河川の上にあるプラスチックごみを回収するような清掃事業をやっていく必要があると思います。事業者とも連携した、ヨーロッパなんかではそういう意味で例えば拡大生産者責任、日本でも考え方がありますが、ごみが捨てられたあとのことに対してもある程度責任を取らせる仕組みができつつあるということですので、その辺を考えていくと、地域清掃活動の推進の中にはどこかに「事業者とも連携して」とかそういう言葉を入れていただくと、もっと活発になる。

事業者のほうも、そういうことに参加することによって自分たちの社会的な貢献とかもアピールすることができると思うので、win-winになるんじゃないかなと思います。その辺もちょっと検討いただければと思います。

【事務局】

今やっているラブアース・クリーンアップ等でも事業者も参加した形での取り組みを進めておりますけれども、ここの文言は確かにそれが見えづらいというか、見えてないところもありますし、今後事業者の責任、確かに拡大生産者責任もそうですけど、事業者の責任も含めてもっと指導したほうがいいという、これはずっと作業部会でも言われているご意見ですので、ここはうまく表現できるような形で修正したいと思います。ありがとうございます。

【部会長】

ありがとうございます。もう少し時間がありますので。

【委員】

以前は企業の社会的責任という言葉がよく聞かれてたけど、最近はトーンダウンしているでしょ。それをやるのが企業イメージも良くするし、win-winになるといういろいろ調査があるけれども、何となくトーンダウンしてるんですね。だからやっぱりいろいろ、経団連の姿勢もあると思うんですけども、どうしてもこういうのは長続きしないんですね。そういう時期が10年ぐらい前にあったんですけども、今はそういうのはあまり言わなくなってるから。

【事務局】

今、ラブアース・クリーンアップでやってるんですけども、企業さんが主体的にやっている会場もたくさんあります。今年コロナで少し分散してやるというところで発信してるんですけども、すごく問い合わせも多いです。どういうふうに参加したらいいですか

というようなお問い合わせも増えてきてます。企業も CSR 活動としてやりたいとか、海洋プラスチックごみ問題として取り組みたいというふうなお声を聞いてますので、取り組みやすい体制づくりというのをしようとしています。

【委員】

そのラブアース・クリーンアップの活動というのは、福岡が発祥だからそういうのを PR してもいいと思うんです。その伝統と、20 年以上にやってますけれども、それを継承しながら。

というのは、言い換えると、まさに海洋プラスチックごみ対策の先頭を行っていたわけです。そういうのをもう少し PR してもいいんじゃないかなと。

【事務局】

そうですね。今年、世界水泳の会場がウォーターフロントゾーンとかでありますので、大会の盛り上げといったタイミングでみんなで一緒にやっていくという取り組みは新たに進めていきたいと思います。

【委員】

その時は海洋プラスチックごみの言葉がなかったから、あまりマイクロプラスチックとかは言ってなかったけれども、考えてみるとやった人たちはマリンスポーツをやってる 4~5 人の人たちが始めたんです。そういうのはやっぱりどこかにコラム話を、福岡が元祖でしょうからいいと思います。

【委員】

全体的なことなんですけれども、確かに取組指標をそれぞれ書かれてるんですけども、施策とよく読まないでリンクしてるように見えないから、取組指標はまとめてでもいいのかなと思ったんです。

市民からいくと、どれがどれって分かんないんじゃないかなと。だからこれはまとめる時に、評価する時に評価する側が分かりやすくしている感じがするので、実際見る側としてはあまりなくて、さっき委員が言われたようにパーセンテージでこの行動をこれだけするのかあって、そういう目標みたいな、目標の位置付けのほうで分かりやすいかなと思ったんです。なのでそれをしていただきたいというのがまず 1 つです。

もう 1 つは先ほどの海洋プラスチックごみなんですけれども、ラブアース・クリーンアップというのは確かに企業が参加してます。けれども年に 1 回です。それでいいのかというところが残るので、例えば福岡市でも環境行動賞なんかで、地域の清掃活動を毎日やってるとか、どれぐらいその事業者があるのかとか、そういうのもいいんじゃないですか。

要するに、ポイ捨てというのは川に直接投げ込むじゃなくて、道路にそこら辺に捨てるのが雨で流れていったりするわけですので、そういったところから考えると清掃、自分の周りの清掃というのは非常に重要なので、そういうのも取組指標に入れたほうがいいのかなと私は思いました。

【部会長】

ありがとうございます。

【事務局】

取組指標については、28 ページから一応一覧表でまとめて記載をしています。ここだけで足りると言えば足りるのかなというところもあって、施策と紐付けたかったので書いていますけれど、そちらよりこちらのほうが見やすいですか。

一覧表で書いておいて、先ほど委員が言われたとおり、ここではそういう意識付けというか、そういった数値を載せるとか、そういった表現方法があると思います。

【委員】

良いと思います。

【事務局】

分かりました。検討させていただきます。

【委員】

雑な表現だと、あと 100 年ぐらいしたら、誰も何もしなかったらそのままプラスチックごみの島ができるかもしれないし、そのまま海に流れたら海洋プラスチックごみの原因になるという話でもいいと思うんですけども、そういうものをちょっとコラムを入れてもらうと、大変さが身に染みるかなと。

【部会長】

ご意見ありがとうございます。

【委員】

今のご意見に関連するんですけど、海洋プラスチックごみのモニタリングをするような文言をどこかに入れられないですか。モニタリング体制の構築について検討する。

例えば、今、川沿いのポイ捨ての状況なんかは、衛星画像で見ればすぐ分かりますし、最近は水中ドローンとかの機能もすごく発展してきて、先日私も海釣り公園というところで水中ドローンのデモをやっている企業がいたので行ったら、すごいクリアに海底とか見えたんです。そういうモニタリングのツールってすごく技術発展しているので、今はすぐ見ることができないかもしれませんが、どういう具体的なことはなくてもモニタリングの体制を整えるということは重要なんじゃないかなと思います。

【事務局】

それ自体になると、今度はごみ部門というより環境監理部門というところも連携してやっていくことになるので、今の現状とかもまだ全然把握していませんので、そちらの現状を踏まえた形でどこまで書けるのか、どういうふうに表現したらいいのかというのを検討させていただければと思います。

【委員】

河川からいくと国土交通省ですので、道路下水道局とも関連するんじゃないですかね。そこが動かないとなかなかデータは取れないのかな。だから市をあげて、海洋プラスチックごみに対してのモニタリングというのはデータがほとんどないから。合流式もありますよね、都市部は。だから都市部の場合は下水処理場に来ていて、下水から沈砂池か何かのごみである程度モニタリングできると思うんですけども、分流式になってしまうと、ほとんどそのままということですよ。

そういう観点からいくと、下水道の整備をどういうふうにしていくのか、流域整備をどうしていくのかと多分関係してくると思うんです。そういう面では、道路下水道局も巻き込んだモニタリングが必要かなというふうには思うんです。

対策とかでも、さっき委員が言われたように、モニタリングがないとどこに対策を打っていいか分かんないんです。ほかの自治体は下水道局でいろいろマイクロプラスチックのデータを調査したり、海外でも結構やっているところがあるけれども、日本では少ないですよ。これからなので、ぜひ私もやってほしいなと思います。

【委員】

もともとマリンスポーツのインストラクターで、それで子どもたちを巻き込んで海を知ろうと、博多湾の生態とかいろいろやって、潜ってプラスチックとかこうなってる写真とか動画をいっぱい持っている方がいるんです。

まず現状を見せたほうがいいと思うんです。表面から見たらきれいだけど、海底に沈んでる網とか釣り糸とかそういうのをいっぱいやって、その方たちに、毎日ではできないにしても2カ月に1回とかでいいんですけども、そういうので現状でこんなに博多湾の下はなっていますよというのをやる。必要であれば、海洋ドローンとかを用意して、プロに撮ってもらってもいいと思うんです。

【事務局】

今現在、一緒にやっております。映像を撮ったり写真を撮ったりして。モデル的に先日、小学校で小学生が拾ったものをまず学校に持って来て、海底ではこうでこうでというのを一連で全部説明するという授業だったんですけども、その辺も一緒に。

【委員】

海中ドローンというのはどんなものなんですか。潜水しながら撮っていくんですか。

【委員】

そうです。100メートルか200メートルぐらいのケーブルで、深く潜って。値段はピンキリですけど、私が見たのは100万円ぐらいで出ました。福岡市の海釣り公園で、栈橋からぼとっと落として見てます。魚とかも見ましたし。

【委員】

やっぱり見たほうが一番現実的。

【委員】

分野横断的施策のところの粗大ごみなんですけど、実は実体験からなんですけど。うちの実家が、父が亡くなって9年で母が3年になったんで、家を片付けたんです。50年住んでいたんで、そりゃあすごかったんですよ、ごみが。

でも使えるものが結構、昔ながらの良い物があって、着物とか。そういうもののリサイクルが分からない。どこに頼んでいいのかわからない。市の粗大ごみで出せるような量じゃないので、もちろん一般的なものは業者に頼んで片付けてもらって、分別して持って行ってもらったんですけど、使えるものをどうしたらいいのかわからないというのをものすごく、やっぱりもったいなくて。結局は、大変だから大半捨てちゃったんです。

だから何かそういうのがもう少し何か、そこはビジネスとかと絡んでくるので、本当のちゃんとしたリサイクル業者というか、またそれを売るとか再生するとかいうのをしてくれるようなところが、高齢者が亡くなったところはそういうのが出てくるので、そんなふうなものがビジネスとして、福岡の新たな環境ビジネスみたいなので出てくるといいなと思うんですけど。

あるんでしょうけれども、分からないんです。情報がないんです。例えば着物だったらこういうところとか、タンスだったらこういうところと、多分引き取るところが分かっていると思うんです。でも、知らないところに頼むのは怖いので、なかなか探さずじまいで結局はごみに出しちゃったんです。その時、福岡市のごみを増やしているんじゃないかなと気になったぐらい出たんですけど。

だから何かそういうふうなものが、ビジネスとして前から出ていた環境ビジネス、何かそういうふうなものでもっと生まれてくるといいなと思うんですけど。そんなのがちょっとどこかに盛り込めないかなと思っています。

【委員】

去年か一昨年ぐらいに環境省が冷蔵庫問題に対してガイドラインを近々出すような話をその頃聞いたことがあるんです。その情報というのは全然ないんですか、その後。

【事務局】

ないです。

【委員】

要するに熊本なんか地震があったじゃないですか。あの時にずっと調査すると、とんでもないのが出てくるわけです。冷蔵庫が3台も4台も出てくる。テレビもデジタルになったおかげで使わないから、真空管の昔のテレビが何台も災害の時にどっと出てくる。もったいないからずっとためているわけです。

都会の場合はあまりスペースがないから置いていないけれども、やっぱり戸建てだと田舎に行けば行くほど、結構広いスペースがあるから、そこに全部入っている。そういうのがこれから出てくるだろうと思うんです。

そういう問題は、高齢者が増えてくれば多分出てくると思うんです。ちょっと環境省に聞いていただいたら。

【部会長】

ありがとうございます。

そしたら時間もありますので、今日、初見に近い形でも結構ご意見を出されたので、また引き続きあれば。リミットは1月の何日みたいな感じですか。

【事務局】

今日頂いた意見も含めて、また次の部会よりも前にご意見を頂きたいと考えています。なるだけ早い段階で、今回はぎりぎりになってしまったので。

【部会長】

じゃあ1月中にリマインドされたものを含めて。

【事務局】

それでお願いしたいと思います。

【部会長】

そしたらにいろいろご意見を頂きましてありがとうございます。

では本日の議事は以上ですけど、何か事務局から。

【事務局】

部会長、委員の皆さん、本日は長い時間ありがとうございました。今回、今年度最後の作業部会でございますので、部長のほうから一言。

【事務局】

年末でございますので一言ごあいさつを申し上げます。

委員の皆さまにおかれましては、今年2月の作業部会の立ち上げから8回にわたりました、熱心にご議論いただきまして本当にありがとうございました。

特に今年は、昨日市長も言うておりましたけれども、新型コロナに振り回された1年ということでございました。この計画の策定につきましても運営で非常に苦慮するところもあったんですけれども、委員の皆さま方、特にオンラインの開催にも柔軟にご対応いただきまして、そのおかげで今に至っているということで、重ねて感謝申し上げます。

来年年明けは仕上げの時期に入っておりますけれども、引き続きよろしく願いいたします。本年はどうもお世話になりました。ありがとうございました。